

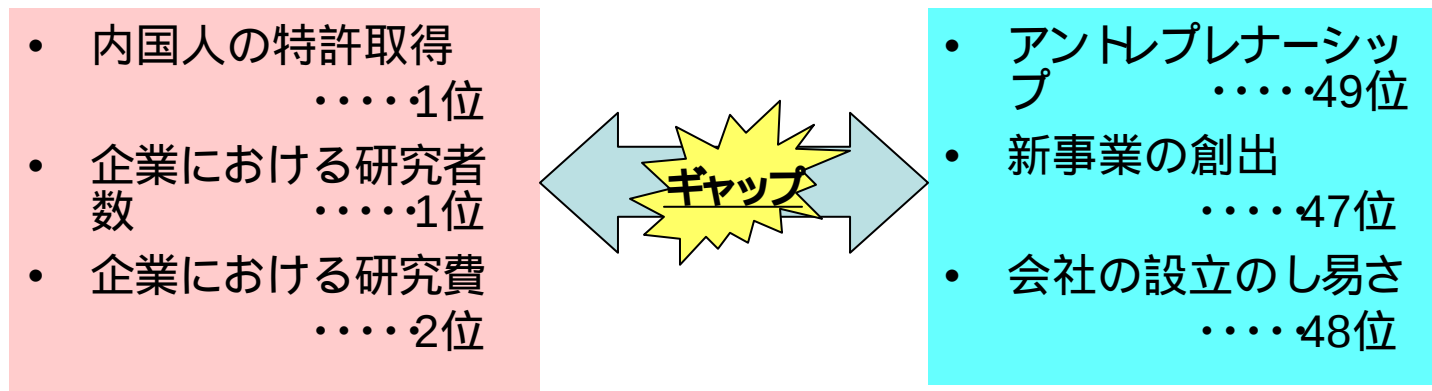
知的財産を新事業に発展させる - フロントランナーとなるために -

2003年 4月 18日

慶應義塾長

安西祐一郎

1、特許の取得は世界一、しかし新事業は最低

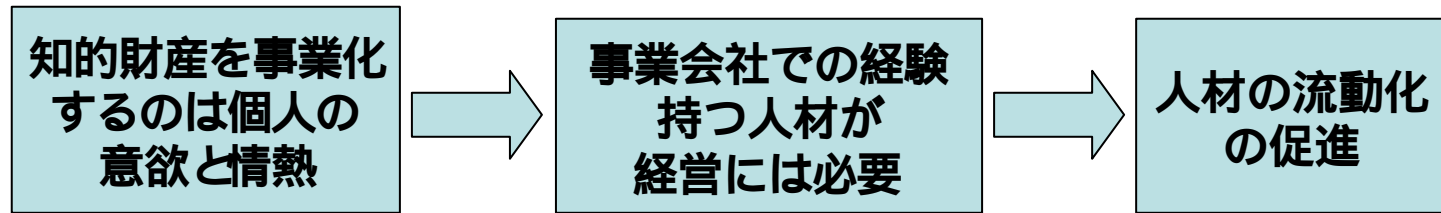


(IMD 2002、調査対象国49国)

2、染み付いたキャッチアップ体質を払拭し、フロントランナーとなる視点から再構築する

3、特に新事業を起こすために、知的財産、経営チーム、スペース、スタッフ、VC等が豊富に提供される状況をつくる。そして、大学には以下の措置が必要

(1) 人材の流動化を促進する (不足している経営人材)

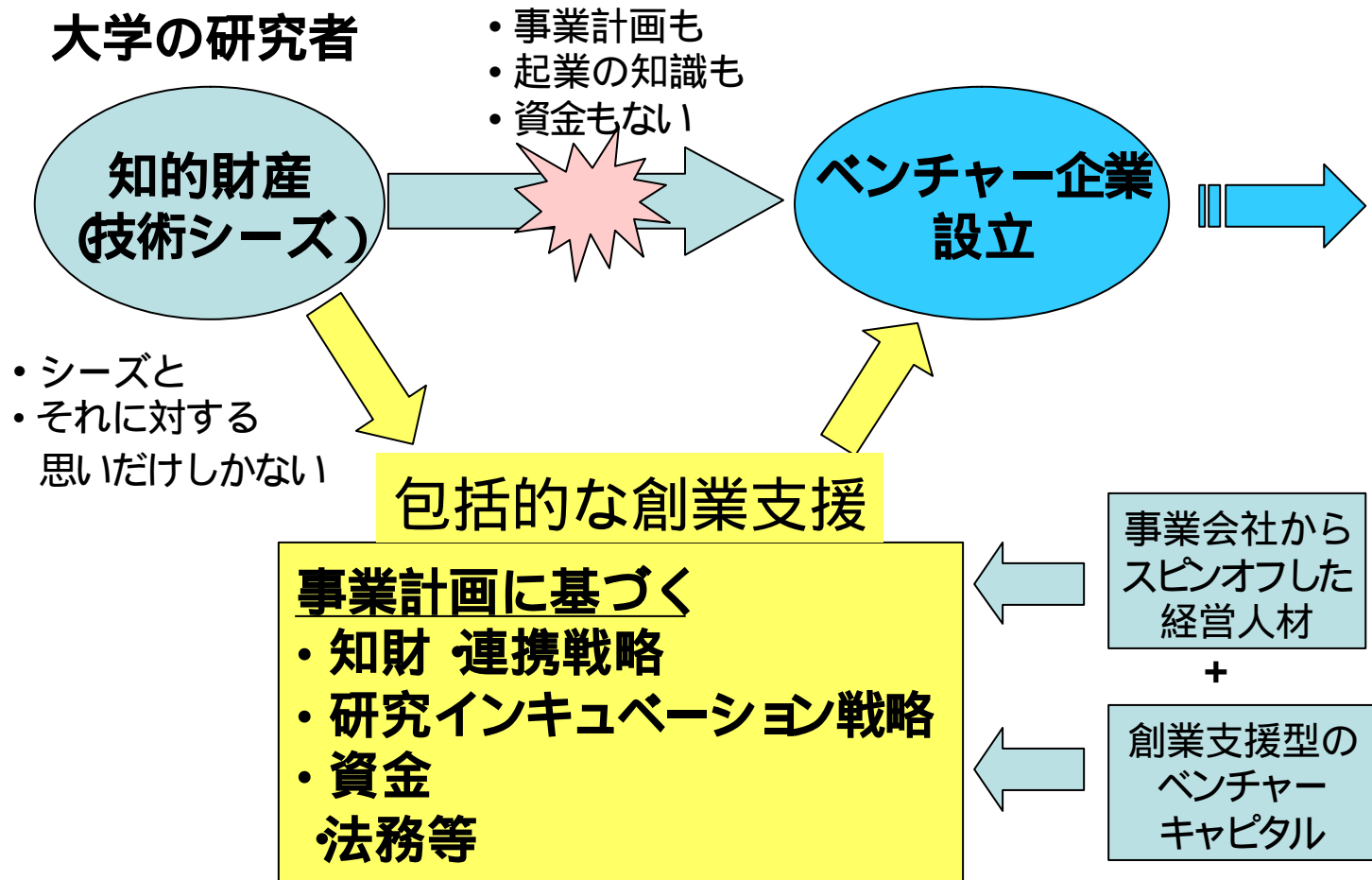


- ・事業会社からのスピノフの仕組み
- ・ベンチャーの経営者となる場合 2年間に限り給料等保証

(2) 創業支援型のベンチャーキャピタルの層を厚くする

- ・包括的なベンチャー創出支援
- ・ベンチャーキャピタルが投資する案件に対し、同額国が投資する

(3) 包括的な創業支援のメカニズムを創る



(4) 知財人材、起業人材の養成

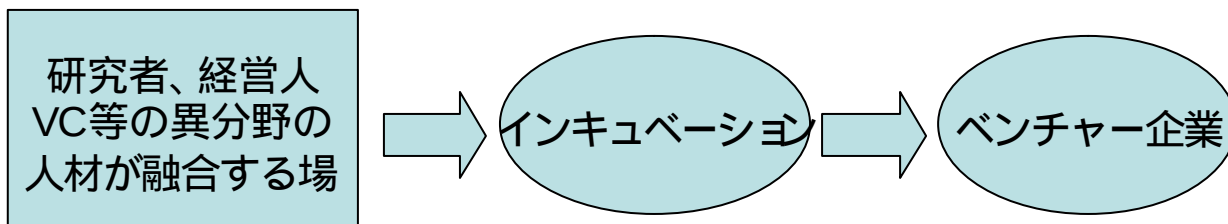
ロースクールや理系の大学院における知財・起業教育研究とともに

大学に、技術シーズ (知的財産) を核に異分野の人材が融合する場を設ける。

そして、研究・ビジネスのインキュベーションやベンチャー創設のプロセスを通じて、知財の活用・創業の環境を創る。

これらの活動を通じた人材の育成も重要

- ・ 産学官リエゾンのためのプログラム開発
- ・ インキュベーション施設とその運用
- ・ ベンチャー企業におけるインターンシップ
- ・ 活動を見聞することによる人材の養成



参考 大学の知財活動は創造的な研究と新事業に貢献する

